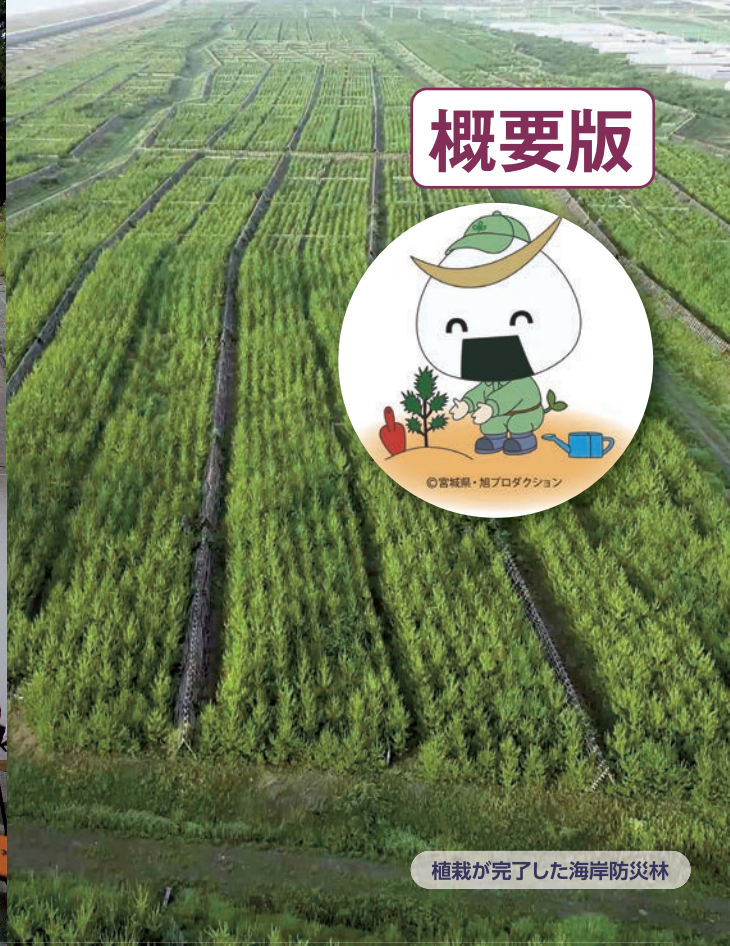




みやぎ森林・林業未来創造カレッジ  
(スマート林業研修における森林調査技術の習得)



みやぎ森林・林業未来創造カレッジ  
(オープンカレッジにおける事例発表・意見交換)



概要版



植栽が完了した海岸防災林

# みやぎ森と緑の県民条例基本計画 ～新みやぎ森林・林業の将来ビジョン～ (中間見直し)



2018 - 2027

宮城県林業技術総合センター  
(CLTパネル工法による建築)

宮 城 県



成長が早く、雄花の着花量が少ない  
【特定母樹】の採種園造成

## 1 新みやぎ森林・林業の将来ビジョン策定の経緯

「新みやぎ森林・林業の将来ビジョン」(以下「ビジョン」という。)は、平成20(2008)年に策定した「みやぎ森林・林業の将来ビジョン」の実施点検の結果を踏まえ、東日本大震災の発生や森林に期待する社会的要請の拡大などの森林、林業・木材産業を取り巻く情勢の変化に的確に対応し、本県の森林の整備・保全及び、林業・木材産業の振興に関する施策の総合的かつ計画的な推進を図る目的で、平成30(2018)年3月に策定しました。

ビジョン策定から5年目を迎えた令和4(2022)年度に、社会情勢の変化なども踏まえ、これまでの取組状況を検証するとともに、本ビジョンの中間見直しを行いました。

なお、本ビジョンは、議員提案により、平成30(2018)年3月16日付けで可決成立した「みやぎ森と緑の県民条例」の基本計画に位置付けられています。

### 中間見直しの概要

#### <目標指標の達成状況の検証>

- ビジョン策定時に設定した18項目の目標指標について達成状況を検証しました。  
13項目の指標で、中間時点の達成状況が80%を超えており、全体として概ね目標どおりに進捗が図られていました。

#### <中間見直しの方向性>

- 理念や目指す姿、基本方向といった、計画の基礎となる部分や全体の構成は、現行のとおりとしました。
- ビジョン策定時以降の情勢の変化や、この間に進めてきた施策の成果・今後の課題等を踏まえた見直しを行い、取りまとめました。

#### <主な見直し内容>

- 本県の森林、林業・木材産業を取り巻く状況の変化について追加  
新・宮城の将来ビジョンの策定、SDGsへの貢献、ウッドショック、森林経営管理法と森林経営管理制度、みやぎ森林・林業未来創造機構、海岸防災林の復旧完了 ほか
- 目指す姿実現のための取組方向について追加  
森林経営管理制度の推進、みやぎ森林・林業未来創造カレッジの取組などを通じた担い手の確保・育成、スマート林業の推進、海岸防災林の適切な保育管理 ほか
- 新たな目標指標(2項目)の設定
  - ・経営管理権集積計画作成市町村数
  - ・海岸防災林の保育管理面積
- 重点プロジェクト推進状況について追加  
主な取組及び課題を整理したほか、取組事例を追記

## 2 新みやぎ森林・林業の将来ビジョン計画期間

平成30(2018)年度から令和9(2027)年度までの10年間

### 3 森林, 林業・木材産業をめぐる情勢と本県の現状

#### 森林の役割

- 地球規模での環境保全に寄与  
二酸化炭素を吸収し, 地球温暖化を防止する機能
- 私たちの安全・安心で快適な生活に寄与  
国土の保全, 水源の涵養, 保健休養の場の提供のほか, 木材やきのこ等の林産物の供給など, 多面的な機能



#### 森林, 林業・木材産業とSDGs

NEW

- 森林は, 生物多様性の保全に欠かせないものであり, 林業・木材産業は, 様々なSDGsの達成に大いに貢献
- 森林環境教育・木育(目標4), 水源涵養(目標6), 山村地域での雇用の創出(目標8), 山地災害の防止(目標11), 持続可能な生産・消費形態の確保(目標12), 気候変動の緩和(目標13), 豊かな海づくり(目標14), 生物多様性の保全(目標15)など



#### 森林, 林業・木材産業をめぐる情勢の変化

- 東日本大震災の発生
- 人口減少社会の到来と地方創生の推進
- 森林機能に対する社会的ニーズの高まり
- 森林資源の充実と林業の成長産業化
- 木材需要の変化と新たな木材利用の創出
- 森林管理が不十分な森林への対応

#### 本県の現状

- 森林資源は成熟し利用可能な段階, 再生林や森林整備は低迷
- 森林所有者の森林経営意欲が低下
- 素材需要ニーズは多様化, 需要動向を見据えた取組が必要
- きのこ等の生産は出荷制限継続による影響が課題
- 山地災害への備えから高まる森林保全・保護の重要性
- 復旧が完了した海岸防災林の今後の維持・管理体制の構築
- 森林所有者の森林管理・経営意欲の減退から林業事業者の役割が高まる中, 新たな担い手対策がスタート



令和4年度に開校した  
みやぎ森林・林業未来創造カレッジ

### 4 森林, 林業・木材産業の目指す姿

“木を使い・植え・育てる”循環の仕組みが定着し, 旺盛な木材需要の下で県産材自給率が向上することにより, 県内林業・木材産業が活力あふれる循環型産業として成長しています。

また, 水源の保全, 県土保全や地球温暖化防止など森林の持つ多面的機能が発揮され, 県民が森や木を身近に感じながら安心して暮らせる宮城が実現しています。

### 5 森林・林業行政の理念

「森林環境の保全」「低炭素社会の構築」「地域経済の発展」それぞれが共存し, 均衡が取れた宮城の森林・林業



【目指す姿の概念図】

## 6 政策推進の基本方向と12の取組

本県森林、林業・木材産業の情勢及び現状を踏まえ、目指す姿を実現するために、以下の4つの政策推進の基本方向に沿って12の取組を推進していきます。

### 政策Ⅰ 林業・木材産業の一層の産業力強化

東北地方最大の消費地仙台を抱えるなど豊富な木材需要を活かし、県産木材の生産流通改革や新たな需要創出のほか、持続可能な林業経営の推進に取り組み、林業・木材産業のより一層の産業力強化を図ります。

#### 取組 1 県産木材の生産流通改革

- 素材生産性を向上させる林業基盤の整備と人材の育成
- ICTを活用した木材需給システムの構築など

#### 取組 2 県産木材の需要創出とシェア拡大

- オールみやぎによるCLT等建築物の普及
- 超厚合板やDLTなど新たな木質建材の新用途開発
- 民間施設も含めた木造化・木質化の推進など

#### 取組 3 持続可能な林業経営の推進

- 森林施業の集約化に向けた森林経営計画策定の促進
- 市町村が主体となって取り組む森林経営管理制度の推進
- 森林を活用したカーボン・オフセットの取組推進など

主な目標指標	現況値	中間実績	中間目標	目標R9(2027)
素材生産量【年間】	586千 <sup>3</sup> m <sup>3</sup> H28(2016)	627千 <sup>3</sup> m <sup>3</sup> R3(2021)	638千 <sup>3</sup> m <sup>3</sup> R3(2021)	700千 <sup>3</sup> m <sup>3</sup>
経営管理権集積計画作成市町村数【累計】	4市町 R3(2021)	—	—	30市町村

#### 取組事例 新たな制度「森林経営管理制度」の取組

手入れが行き届かない森林を市町村が主体となり経営管理を行う「森林経営管理制度」が平成31(2019)年4月から始まりました。

県では、制度の運用等を分かりやすく解説したガイドラインを作成するとともに、技術支援等を行うサポートセンターを設置し、市町村の取組を支援しています。今後も、市町村や森林組合との連携を図りながら、取組を推進していきます。



林業普及指導員等による市町村との打合せ



### 政策Ⅱ 森林の持つ多面的機能のさらなる発揮

森林の持つ多面的機能をより一層発揮させるため、「木を使い、植え、育てる」という森林資源の循環利用を通じた森林の整備や多様性に富む健全な森林づくりを推進し、自然災害に強い県土の保全対策に取り組めます。

#### 取組 4 資源の循環利用を通じた森林の整備

- 主伐・再造林の推進による森林資源の再造成
- 成長や形状に優れた次世代造林樹種の導入など

#### 取組 5 多様性に富む健全な森林づくりの推進

- NPOや企業など多様な主体との連携を推進
- 松くい虫被害対策の推進と松林景観の保全
- 森林生態系の保全や生物多様性に配慮した森林づくりなど

#### 取組 6 自然災害に強い県土の保全対策

- 重要な森林の保安林指定と適切な管理・整備の推進
- 山地災害危険地区の計画的な整備の推進
- 再生可能エネルギー施設設置に対する適切な指導など

主な目標指標	現況値	中間実績	中間目標	目標R9(2027)
植栽面積【年間】	216ha H27(2015)	289ha R3(2021)	308ha R3(2021)	400ha
山地災害危険地区(Aランク)の治山工事着手率【累計】	56% H28(2016)	47% R3(2021)	60% R3(2021)	65%

#### 取組事例 山地災害危険地区の指定と治山対策の推進

近年、自然災害が頻発化・激甚化しており、ひとたび災害が発生すると被害規模が甚大となる傾向があります。

県では、山地災害が発生する恐れが高い民有地を「山地災害危険地区」に指定しており(令和4(2022)年3月末現在で計2,254箇所)、危険度ランクの高い箇所について、優先的に治山対策に着手しています。



治山事業による復旧状況(山腹工)



## 政策Ⅲ 森林、林業・木材産業を支える地域や人材の育成

林業・木材産業の産業力強化と森林の多面的機能の発揮を図るため、経営感覚に優れた経営者や林業従事者の育成を図るほか、地域間や産業間の連携により地域産業の育成に取り組みます。また、森林の保全や循環型産業としての林業・木材産業の重要性に対する県民理解の醸成に取り組みます。

### 取組 7 持続的成長をけん引する経営体や担い手の育成

- NEW ■みやぎ森林・林業未来創造機構による就業環境の改善
- NEW ■みやぎ森林・林業未来創造カレッジによる人材育成の強化
- 森林組合の経営体制の強化など

### 取組 8 地域・産業間の連携による地域産業の育成

- 水平連携による新たなものづくりへの支援
- 特用林産物の収益力向上に対する支援
- NEW ■広葉樹家具や育林等の森林資源活用型ビジネスへの支援など

### 取組 9 新たな森林、林業・木材産業関連技術の開発・改良

- ニーズの的確な把握や関係機関との連携等による効率的な試験研究の実施
- 試験研究成果の迅速な普及と技術情報の提供
- NEW ■生産性や安全性の向上に向けたスマート林業の推進など

### 取組10 森林、林業・木材産業に対する県民理解の醸成

- 県民の学びをサポートする専門家の養成
- 県民参加の森林づくりによる県民理解の醸成
- NEW ■SDGsに貢献する森林、林業・木材産業の魅力発信など

主な目標指標	現況値	中間実績	中間目標	目標R9(2027)
新規林業就業者数【年間】	54人 H28(2016)	42人 R2(2020)	70人 R2(2020)	100人
林業(特用林産物)産出額【年間】	36億円 H27(2015)	41億円 R2(2020)	40億円 R2(2020)	46億円

#### 取組事例

#### みやぎ森林・林業未来創造カレッジの開校、林業技術総合センターの新施設完成

みやぎ森林・林業未来創造カレッジは、研修生のニーズに合わせた全7コースを設定し、カレッジ開校初年度となる令和4(2022)年度は22講座を開催しました。林業大学校と異なり、「働きながら学ぶ、ステップアップする」ことを後押しするため、キャリアに応じて選択的に研修を受講することが可能です。

林業技術総合センターは、エリートツリーや無花粉スギの品種開発、中大規模木造建築に対応する木質部材の開発などの研究を行うとともに、研修・普及の役割を担っています。令和3(2021)年に、事務・研究棟と研修棟の一体的施設として、CLTパネル工法など新たな木材利用技術を導入し建替・整備され、カレッジの研修拠点となっています。



カレッジのドローン操作研修



## 政策Ⅳ 東日本大震災からの復興と発展

海岸防災林の再生について、植栽したクロマツ等の計画的な保育・管理を進めるほか、原発事故に伴う特用林産物の出荷制限解除などに取り組みます。また、地域資源や震災を契機に生まれた交流などを活かし、地域産業の活性化や地域づくりを推進します。

### 取組11 海岸防災林の再生と特用林産物の復興

- NEW ■福島第一原子力発電所事故による放射能汚染問題への対応
- NEW ■植栽が完了した海岸防災林の計画的な保育管理の推進など

### 取組12 地域資源をフル活用した震災復興と発展

- 公共施設等への認証材活用の促進
- 森林認証を核とした地域振興の推進
- NEW ■みやぎグリーンコーストプロジェクト等の展開による震災の教訓伝承と交流人口の拡大

主な目標指標	現況値	中間実績	中間目標	目標R9(2027)
海岸防災林の保育管理面積【累計】	12ha R3(2021)	—	—	753ha
原木きのこ出荷制限(自粛)解除生産者数【累計】	31人 H28(2016)	54人 R3(2021)	47人 R3(2021)	66人

#### 取組事例

#### 海岸防災林の再生に向けた取組の実施

被災した海岸防災林の植栽は令和3(2021)年に全て完了し、今後は植栽木の健全な生長を促すための下刈りや除伐などの保育管理が必要となります。広大な面積の保育管理には、県の治山事業の実施とともに民間団体との連携・協働が欠かせないことから、「みやぎ海岸防災林・森林づくり協議会」を設立し、連携を強化し取組を推進していきます。



海岸防災林の下刈り



## 7 5つの重要プロジェクト

50年後、100年後の宮城の森林、林業・木材産業の姿を考え、県がこの10年間で取り組む施策の中でも特に力を注いでいくべき取組を「重点プロジェクト」に設定し、多様な主体の協力を得ながら推進していきます。

### 重点プロジェクト1

## 新たな素材需給システムと木材需要創出 ～年間生産70万m<sup>3</sup>への挑戦～



### 令和4(2022)年度までの主な取組と課題

- 県内のCLTを用いた建築物の建設棟数は、令和3(2021)年度までに21棟に増加し、また、木質バイオマス活用施設導入数は65基に増加するなど、着実に成果が現れています。
- 加工・製品流通の合理化については、ブロックチェーンを活用した木材流通システムの構築に向けた取組が開始され、今後は川上から川下までのサプライチェーンの整備を推進していく必要があります。



CLT建築事例 (左:株式会社コスモスウェブ本社(仙台市))  
(右:みやの森こども園(大和町))

### 重点プロジェクト2

## 主伐・再造林による資源の循環利用



### 令和4(2022)年度までの主な取組と課題

- 主伐・再造林については、一貫作業システムの普及や補助事業体系の見直しなど、森林施業の低コスト化・省力化を現場レベルで定着させる取組を推進し、再造林率のアップにつながっています。
- 森林施業の集約化に向け、これまでに「意欲と能力のある林業経営者」として32団体を認定・登録したほか、森林情報適正化やクラウドシステムを導入し、集約化の基礎となる森林情報の整備を進めました。
- 適切な森林管理が行われていない森林については、「森林経営管理制度」による新たな取組が開始されていますが、円滑で効果的な実施に向け、市町村への支援を強化していく必要があります。



主伐から再造林までの一貫作業 再造林された山林

## 重点プロジェクト3 経営能力の優れた経営者の育成、新規就業者の確保



### 令和4(2022)年度までの主な取組と課題

- 令和2(2020)年度に、産業界・地域の団体・行政などが連携し「みやぎ森林・林業未来創造機構」を設立するとともに、機構による「みやぎ森林・林業未来創造カレッジ」が令和4(2022)年度に開校したことで、重点プロジェクトで描いた「林業の就業環境の向上や経営強化」と「人材の確保・育成」に向けた取組を一体的に推進する体制が整いました。
- 今後は、PDCAサイクルにより、カレッジの充実・強化を図りながら、林業の課題を解決し、儲かる林業・魅力ある林業の実現へとつなげていく必要があります。

### カレッジ受講生の声(林業DX講座)

- ◆日頃の業務中では触れないレベルが高い内容で、毎回新たな可能性を掻き立てられます。
- ◆受講生同士の情報交換など、講義以外にも参考になる気づきが多くあります。
- ◆林業DXは林業の新たな構造改革の可能性を秘め、特にこれからは事業体間の連携も必要になると感じました。

## 重点プロジェクト4 地域・産業間連携による地域資源の活用



### 令和4(2022)年度までの主な取組と課題

- これまで県内ではあまり利用されてこなかったコナラ等の有用広葉樹を活用し、著名なデザイナーや伝統工芸職人のグループなどと連携して、新たな家具製品が商品化されているほか、森林浴ツアーや森林セラピーなど、森林資源を活用したサービスが提供されています。
- これらの取組においては、デザイナーやアウトドアメーカー、化粧品ブランドメーカーなど、様々な異業種との連携が見られ、より良い商品やサービスの創出につながっています。今後、先行事例を広く共有し、横展開を図るとともに、積極的に異業種とも交流・連携できる、意欲的な経営者等の育成を図りながら、新しい価値を創造できるネットワークづくりを進める必要があります。



森林認証材を活用した家具ブランド「kitakami」の立ち上げ

## 重点プロジェクト5 海岸防災林の活用等による震災の教訓伝承と交流人口の拡大



### 令和4(2022)年度までの主な取組と課題

- 県民等が主体的に関わる海岸防災林の管理体制を構築するため、令和3(2021)年3月に「みやぎ海岸林再生みんなの森林づくり活動」協定団体及び関係市町等で構成する「みやぎ海岸防災林・森林づくり協議会」を設立しました。また、海岸防災林が人々に親しまれ、若い世代に将来にわたって活動を行ってもらうことを目的に、令和3(2021)年度から「みやぎグリーンコーストプロジェクト」の取組を開始し、普及動画の制作やバスツアーの開催などを行っています。
- 重点プロジェクトで描いた仕組みが形になり、具体的な取組を開始していますが、海岸防災林が十分な機能を発揮するまでには長い年月を要するため、引き続き、将来にわたって、活動を継続していく必要があります。



動画制作及びYouTubeチャンネル開設



みやぎ海岸防災林対話会

## 8 新みやぎ森林・林業の将来ビジョンの目標指標状況

政策Ⅰ					
目標指標	単位	実績	中間目標	達成状況	目標(R9)
素材生産量【年間】	千m <sup>3</sup>	627	638	98%	700
林業(木材)産出額【年間】	億円	44	49	90%	56
木材・木製品出荷額【年間】	億円	710	846	84%	980
木質バイオマス活用施設導入数【累計】	基	65	50	130%	60
CLTを用いた建築物の建設棟数【累計】	棟	21	26	81%	54
森林経営計画の策定率【累計】	%	27	43	63%	60
経営管理権集積計画作成市町村数【累計】	市町村	4	—	—	30

政策Ⅱ					
目標指標	単位	実績	中間目標	達成状況	目標(R9)
間伐実施面積【年間】	ha	3,366	5,600	60%	5,600
植栽面積【年間】	ha	289	308	94%	400
松くい虫による枯損木量【年間】	m <sup>3</sup>	9,305	12,019	129%	10,000
保安林の指定面積【累計】	ha	68,964	68,871	100%	70,872
山地災害危険地区(Aランク)の治山工事着手率【累計】	%	47	60	78%	65

政策Ⅲ					
目標指標	単位	実績	中間目標	達成状況	目標(R9)
新規林業就業者数【年間】	人	42	70	60%	100
森林施業プランナー雇用林業事業者数【累計】	事業者	20	17	118%	28
林業(特用林産物)産出額【年間】	億円	41	40	103%	46
宮城県森林インストラクター認定者数【累計】	人	683	725	94%	900

政策Ⅳ					
目標指標	単位	実績	中間目標	達成状況	目標(R9)
海岸防災林(民有林)造成面積【累計】	ha	753	750	100%	750
海岸防災林の保育管理面積【累計】	ha	12	—	—	753
原木きのこ出荷制限(自粛)解除生産者数【累計】	人	54	47	115%	66
特用林産物生産施設のGAP認証取得数【累計】	件	5	8	63%	15

※ 実績値は各項目の直近公表値を記載(令和5年2月時点)  
 ※   は現時点での目標値(中間目標値)を概ね達成している項目  
 ※   は中間見直しにおいて、新たに設定した目標指標

本ビジョンに関する御意見や御提案は下記までお願いします。

〒980-8570 宮城県仙台市青葉区本町三丁目8番1号  
 TEL.022-211-2911 FAX.022-211-2919  
 [E-mail] rinsin@pref.miyagi.lg.jp  
 [U R L] <https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/ringyo-sk/>